

小動物を飼っている子どもに向けた防災・減災ガイド

Disaster Prevention and Disaster Reduction Guide for Children with Small Pets

高橋 真希
指導教員 李盛姫

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ビジュアルコミュニケーション研究室

キーワード：小動物、福祉、防災、減災、子供

1. 研究背景・目的

日本は、世界で最も災害が多い国と言われている。^[1] 自然災害は、多くの人の命を奪い、一瞬にしてこれまでの生活基盤を破壊するだけでなく、その後も長期にわたって人々の生活を脅かす。また、自然災害は、人の命を奪うだけでなく、多くの動物の命も奪う。ペットの飼育率調査により、日本は犬・猫の飼育率が最も高いが、小動物の飼育率も決して低くないことが分かった。しかし、ペットに関する防災対策調査によると、ペットの防災対策を実際に行っている人が少ないことや、特に小動物のための災害対策に関する情報や媒体が少ないことが分かった。本研究では、自分より小さな命を守る責任と大切さを持ってほしいという思いから、防災・減災に関する正しい知識と方法を伝えるための研究を行う。

2. 調査内容

最初に、私は小学生の頃、インコとハムスターを飼っていた。しかし、小動物の防災減災に関する知識や備えが全く無く、小動物を守るための対策を行なっていなかったという経験がある。次に、ペット・バードについて研究している学者の方からお話を伺い、小動物（特に鳥類）は感染症や鳴き声、しつけが難しいなどの観点から同行避難や避難所での飼育は難しいため、自宅に置いていくことを前提に日頃から災害対策を行っているという意見をいただいた。そこで私は、「災害対策」という言葉以外に「防災」「減災」の違いについて調査した。

2-1. 防災・減災の違い^[2]

防災：災害による被害をゼロにする考え

減災：災害被害を最小限にする考え

2-2. ペットの防災対策についての意識調査^[3]

2022年に男女1015人に行った「あなたは災害を想定してペットに関する防災対策を何かしていますか？」に対し、「あまりしていない」が39.2%、「全くしていない」が41.2%と合わせて約80%の人がペットに関する防災対策の意識が低いということが分かった。

2-3. 小動物に対する子供の接触意向・飼育意向^[4]

小動物・エキゾチックアニマルに対する10代から70代に向けた意識調査の接触意向について「実際に触れてみたい」と回答した年代は10代が63%と高く、同時に飼育意向も10代は全体の39%と最も高かった。

2-4. エキゾチックアニマルと小動物の違い^{[5][6]}

英語のエキゾチック(exotic)とは、「外国産の、外国種の、外来の、特に珍しい、風変わりな」などの意味がある。これより、外国から輸入された珍しい動物がエキゾチックアニマルという。一般的な獣医療やペット産業においてエキゾチックアニマルは、ペットして飼育されている犬猫以外の動物を指す。(鳥類を除く)また、小動物とは、成体になっても体が比較的小さい動物を指す。

2-5. 小動物の防災・減災に関する媒体調査^[7]

多くの人が情報源にするインターネットでは、小動物に関する防災対策として「防災手帳」がある。しかし、小動物は、犬や猫よりも飼育率が低いため、災害対策についての情報発信が少ないこと

が分かった。

2-6. 住まいの町田市のペットに関する災害時の対応調査^[8]

対応調査では、「ペットタウン町田」という広報誌が市のホームページにて掲載されている。その中には、実際に災害が起きた後のペットとの同行避難、避難所によるペット受け入れの有無に関して犬・猫のみが記載されている。小動物についての情報は記載されておらず、また、防災・減災についての具体的な対策や情報は無い様であった。

3. コンセプト

対象を小学3年から中学生までの子供とし、小動物を自宅に置いて避難することを前提に、安心して飼育者が避難できるような防災・減災に関する知識と方法を提案する。自然災害に備えて、対策しておくことで安心して避難できると共に、自分より小さな命を守る責任と大切さを持つてほしいと考える。対象小動物は、鳥類（鳥綱 オウム目、スズメ目）、哺乳類（哺乳綱 重歯目、げっ歯目、真無盲腸目）

4. アイデア展開

対象とした小動物、鳥類（鳥綱 オウム目、スズメ目）と哺乳類（哺乳綱 重歯目、げっ歯目、真無盲腸目）は種類ごとに分けて簡易的な防災・減災ガイドブックを作成する。

4-1. 記載内容

- ・ 概要説明
- ・ 災害シミュレーションチャート（B7サイズ）
- ・ ペット（小動物）の防災・減災対策について
- ・ 災害時に備えた、室内管理
- ・ 災害発生時の想定イラスト
- ・ ペットの防災用品（種族別で記載）

4-2. ガイドブックのサイズ検討

小学3年生から中学生の子供が手に取ること、読みやすいことを想定し、B5サイズを見開き複数ページで作成する（図1）。

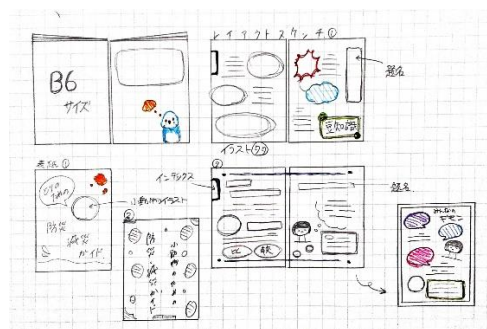


図1 アイデアスケッチ

5. 今後の展開

掲載情報をイラスト化、試作を作成し、検証と見直し検討を行う。また、子供により分かりやすくなるように絵本や紙媒体以外のデジタルやグッズ等の複数ツール提案を検討する。

参考文献

- [1] J I C E 一般法人 国土技術研究センター：災害の多い国日本（2022. 10. 10）
<https://www.jice.or.jp/knowledge/japan/commentary09>
- [2] エコフューチャー株式会社：防災と減災
<https://ecofuture.co.jp/bousailab/taisakugensai.html>（2022. 5. 21）
- [3] アイペット 損害保険株式会社：ペットのための防災対策に関する調査（2022. 5. 9）
<https://www.ipet-ins.com/info/26780/>
- [4] WWF JAPAN: エキゾチックペットに関する日本の意識調査 2021
<https://www.wwf.or.jp/activities/data/20210304wildlife01.pdf>（2022. 5. 2）
- [5] 日本獣医師会：エキゾチックアニマルの生物学（2022. 6. 15）
http://nichiju.lin.gr.jp/mag/05710/06_5.htm
- [6] Weblio: 小動物とは（2022. 6. 15）
<https://www.weblio.jp/content/小動物>
- [7] anicom you: 【ペットと防災】小さな生き物たちの防災について考える（2022. 5. 9）
<https://mag.anicom-sompo.co.jp/9130>
- [8] 町田市公式ホームページ: ペット・動物
<https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/hokenjo/pet/index.html>（2022. 6. 22）